

# もっと知ろう “陶”

## 15、浅間さん

大川のこま犬前から小原方向を臨むと、二つの峰を頂く山（双耳峰）が目につきます。大川の人たちが親しみをこめて浅間山（せんげんさん）と呼び、手前の山に神明神社ほか三社、奥の山に本宮（浅間神社）ほか九つの末社が祀られています。



浅間山

本宮祭神は木花之佐久夜毘売命（このはなのさくやひめのみこと）で、『ふるさと 陶の今昔』では、「寛永2年（1625年）創建され、山岡町田代山より奉遷された。田代山山頂には浅間神社の石祠（せきろう）が今もある。」と記されているので、今年田代山の山頂付近を調査してみましたが石祠を見つけることはできませんでした。



本宮の象頭獅子

大川浅間神社は、大川窯（武蔵之国の加藤左衛門尉景信が文明7年（1475年）開窯）の何代目かが、祖先の生まれ故郷の関東にある筑波の双耳峰に似た大川の山に、関東の人々が敬う富士山の浅間神社を迎えたと考えられています。

間口1mほどの本殿は、浅間造りの様式で本宮の庇、垂木には世にも珍しい彫刻があり、雲龍、象頭獅子等実に素晴らしい逸品で、見る人を驚嘆のあまり、声なく啞然とさせられるという。この卓越した彫刻は美濃の左甚五郎こと野村作十郎（1815～1871）「木工の頭国筠（もくのかみくにみつ）」の作ではないかといわれています。



浅間神社の里宮

山頂の浅間山は女人禁制の時代があり、女人は麓の里宮までしか許されなかったといえます。山頂まで登るのは大変なので、女人のみならず普段は、男もここで手を合わせたことでしょう。子供や旅人も同様だったと思います。

浅間山は大川以外の人で登った人はあまりいないと思います。浅間山は標高が610mで麓の里宮との標高差が200m弱あり、簡単ではありませんが、『一見の価値あり』です。途中、これまた珍しい高野槇の繁る山道を30分ほどで山頂の本宮に着きます。一度登ってみてはいかがでしょうか。クマよけの鈴もお忘れなく。

毎年7月の第1日曜日に例祭が行われています。